

特別プログラム

特別講演

会長講演

教育講演

シンポジウム

ランチョンセミナー

イブニングセミナー

サテライトシンポジウム

市民公開講座

※セッション別に掲載されています。

■ 12月2日 金 ■ 第1会場

特別講演 1

11:00~11:50

座長 原田 信志 (熊本大学大学院医学薬学研究部)
根岸 昌功 (東京都立駒込病院)

Ethical considerations to help assure high quality care in the global epidemic of AIDS

Ruth B. Purtilo

Professor and Director, Ethics Programs, Massachusetts General Hospital
Institute of Health Professions, Boston, Massachusetts, USA

■ 12月2日 金 ■ 第1会場

特別講演 2

14:40~15:40

座長 松下 修三 (熊本大学エイズ学研究センター)

Structure/function relationships relevant to the V3 loop of HIV-1 gp120

Susan Zolla-Pazner

Departments of Pathology and Pharmacology, New York University School
of Medicine and New York Veterans Affairs Medical Center, New York, USA

■ 12月2日 金 ■ 第1会場

特別講演 3

15:40~16:40

座長 滝口 雅文 (熊本大学エイズ学研究センター)

T cell immunity and HIV vaccines

Andrew J. McMichael

Medical Research Council (MRC) Human Immunology Unit, Weatherall Institute of
Molecular Medicine, University of Oxford, John Radcliffe Hospital, Oxford, UK

■ 12月2日 金 ■ 第1会場

会長講演

14:00～14:40

座長 岩本 愛吉 (東京大学医科学研究所)

Multiple-site binding 説再考

原田 信志

熊本大学大学院医学薬学研究部感染防御

■ 12月3日 土 ■ 第2会場

教育講演

10:00～11:20

座長 原田 信志 (熊本大学大学院医学薬学研究部)

[水俣病とハンセン病]

1. ハンセン病の実態

原田 正孝

国立療養所菊池恵楓園

2. 水俣病にまなぶ

原田 正純

熊本学園大学

■ 12月1日 ㊦ ■ 第1会場

シンポジウム1

15:50～17:50

座長 松下 修三 (熊本大学エイズ学研究センター)
杉浦 互 (国立感染症研究所)

[HIV/AIDSの臨床における最近の問題点]

S1-1 Current problems in management of HIV diseases – A brief introduction of the symposium –

HIV/AIDSの臨床における最近の問題点 –イントロダクション–

松下 修三 熊本大学エイズ学研究センター

S1-2 Changes in prevalence and patterns of drug resistant mutations in Japan – Summary of nationwide HIV-1 drug resistance monitoring study (1996 to 2004) in Japan

日本における薬剤耐性の動向

–1996年から2004年までの薬剤耐性モニタリング–

杉浦 互 国立感染症研究所

S1-3 The evolution of transmitted drug resistance

新規感染ウイルスの薬剤耐性の進化

Walid Heneine

Laboratory Branch, Division of HIV/AIDS Prevention, Centers for Disease Control and Prevention USA

S1-4 HAART-associated toxicities in AIDS Clinical Center IMCJ

ACCにおけるHAARTの長期毒性に関する研究

瀧永 博之 国際医療センター

S1-5 Management of long-term antiretroviral toxicity

長期毒性に対する対策 (米国での現状)

Joel E. Gallant Johns Hopkins University School of Medicine

■ 12月1日(木) ■ 第3会場

シンポジウム2

15:50～17:30

座長 今井 光信 (神奈川県衛生研究所)
市川 誠一 (名古屋市立大学看護学部)

HIV検査・相談の現状と今後のあり方
—より受けやすく、より効果的に—

S2-1 HIV検査体制 —現状と課題—

今井 光信 神奈川県衛生研究所

S2-2 江戸川保健所におけるHIV即日検査の導入の背景とその現状

安成 律子 江戸川保健所

S2-3 大阪土曜日常設検査事業における検査体制

—検査体制構築の成果と課題—

岳中 美江 NPO法人・チャーム

S2-4 臨床の現場から—無料匿名検査における医療連携とは

(無料匿名検査における告知後の医療連携とその役割について)

山元 泰之 東京医科大学臨床検査医学科

S2-5 当事者の視点から見た検査

長谷川博史 日本HIV陽性者ネットワーク・ジャンププラス代表

■ 12月1日(木) ■ 第4会場

シンポジウム3

13:10~15:10

座長 満屋 裕明 (熊本大学大学院医学薬学研究部)
松岡 雅雄 (京都大学ウイルス研究所)

[HIV-1とHTLV-I: ベンチからベッドサイドへ]

S3-1 Development of entry inhibitors as a new modality of HIV therapeutics

満屋 裕明 熊本大学大学院医学薬学研究部

S3-2 細胞傷害性 T 細胞による HIV-1感染細胞の認識と HIV-1の逃避機構を探る:

ベッドサイドからベンチへ、そしてベンチからベッドサイドへ

滝口 雅文 熊本大学エイズ学研究センター・ウイルス制御分野

S3-3 成人 T 細胞白血病の発症予防と免疫治療の展望

神奈木真理 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科免疫治療分野

S3-4 HTLV-I 感染からキャリア状態へ至る分子機構

松岡 雅雄 京都大学ウイルス研究所附属エイズ研究施設

■ 12月2日 金 ■ 第2会場

シンポジウム4

16:50～18:30

座長 三間屋純一（静岡県立こども病院）
田口 宏昭（熊本大学文学部）

薬害エイズ問題から見えてくるもの
－医療安全の視点からの検証と教訓－

S4-1

徳永 信一 大阪HIV訴訟弁護団

S4-2

川田 龍平 松本大学

S4-3 社会学と薬害 HIV 事件の調査

栗岡 幹英 奈良女子大学文学部

S4-4 薬害回避への提言 －医療者の立場から－

白幡 聡 産業医科大学小児科

S4-5 HIV 問題から何を学ぶべきか

郡司 篤晃 聖学院大学

ランチョンセミナー

■ 12月1日 ㊟ ■ 第1会場

ランチョンセミナー1

12:00～13:00

座長 松下 修三 (熊本大学エイズ学研究センター)

初回治療に対する戦略 – 処方選択の重要なファクター –

Strategies for initial therapy : factors affecting the choice of the first regimen

Joel E. Gallant

Associate Professor of Medicine, The Johns Hopkins University School of
Medicine, Baltimore, Maryland

共催：アボット ジャパン株式会社

■ 12月1日 ㊟ ■ 第2会場

ランチョンセミナー2

12:00～13:00

座長 福武 勝幸 (東京医科大学 臨床検査医学)

私の NNRTI の使い方

味澤 篤 都立駒込病院 感染症科医長

共催：万有製薬株式会社

■ 12月1日 ㊟ ■ 第3会場

ランチョンセミナー3

12:00～13:00

薬剤部を上手に使う方法 – よりよいチーム作りのために –

今村 顕史、栞原 健、畝井 浩子、工藤 正樹、小住 好子、
佐野 俊彦、奥村 直哉、井門 敬子、堀 成美

共催：ブリストル・マイヤーズ株式会社

ランチョンセミナー

■ 12月2日 金 ■ 第1会場

ランチョンセミナー4

12:00～13:00

座長 岩本 愛吉 (東京大学医科学研究所)

新世代の HAART におけるレイアタツ (ATV) の位置づけ

岡 慎一 国立国際医療センター エイズ治療研究開発センター (ACC)
臨床研究開発部部長

共催: ブリストル・マイヤーズ株式会社

■ 12月2日 金 ■ 第2会場

ランチョンセミナー5

12:00～13:00

座長 白阪 琢磨 (国立病院機構大阪医療センター)

HBV/HIV 重複感染例の治療戦略

1. 本邦における B 型慢性肝炎の病態と治療について

四柳 宏 東京大学医学部附属病院感染制御部 講師

2. HBV/HIV 重複感染例における HAART について

菊池 嘉 国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター 医長

共催: 鳥居薬品株式会社

■ 12月2日 金 ■ 第3会場

ランチョンセミナー6

12:00～13:00

司会 青木 眞 (感染症コンサルタント)

症例から学ぶ HIV 感染症「発見」のコツ

Ann Khalsa Director of AIDS Training,
Texas-Oklahoma AIDS Education and Training Center
(財)エイズ予防財団 エイズ拠点病院医療従事者海外研修提供団体:
南カリフォルニア大学 AETC プログラム 前ディレクター

共催: グラクソ・スミスクライン株式会社

■ 12月1日(木) ■ 第2会場

イブニングセミナー

18:00~20:00

司会 木村 哲 (国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター センター長)
満屋 裕明 (熊本大学大学院医学薬学研究部 血液内科・膠原病内科・感染免疫診療部 教授)

GSKイブニングセミナー

[HIV感染症「治療の手引き」第9版]

1. ウイルス肝炎合併時の HIV 感染症の治療

小池 和彦 東京大学大学院医学系研究科内科学専攻生体防御感染学 教授

2. HIV 感染と STD

田中 正利 福岡大学医学部泌尿器科 教授

3. 耐性変異の解釈と意義 Update

潟永 博之 国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター

4. 新たに注目すべき薬物相互作用

白阪 琢磨 独立行政法人国立病院機構大阪医療センター
HIV/AIDS 先端医療開発センター

共催：HIV 感染症治療研究会
グラクソ・スミスクライン株式会社

■ 12月2日 金 ■ 第2会場

サテライトシンポジウム1

18:50～20:30

司会 山本 政弘（国立病院機構九州医療センター HIV 診療担当医）

独立行政法人国立病院機構ネットワーク研究

HIV/AIDS 外来クリティカルパス研修会

SS1-1 HIV/AIDS 外来クリティカルパス作成の目的

古川 直美 国立病院機構 九州医療センター HIV 担当看護師

SS1-2 外来診療における診察と検査について

菊池 嘉 国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター

SS1-3 外来診療におけるセルフケア支援について

島田 恵 国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター
コーディネーターナース／看護支援調整官

主催：独立行政法人国立病院機構ネットワーク研究

■ 12月2日 金 ■ 第3会場

サテライトシンポジウム2

18:50～20:30

司会 池上千寿子 (特定非営利活動法人 ぶれいす東京 代表、
厚生労働省エイズ対策研究事業 主任研究者)

[知識から意識へ -HIV 予防介入の実践とその評価-]

SS2-1 新しい予防教育のストラテジー

池上千寿子 ぶれいす東京

SS2-2 HIV 陽性者による周囲への告知の影響に関する調査

生島 嗣 ぶれいす東京

SS2-3 ピアによる教材とその効果

徐 淑子 新潟県立看護大学

SS2-4 自治体による当事者性を生かした取組

兵藤 智佳 ぶれいす東京

主催：財団法人エイズ予防財団

■ 12月3日(土) ■ リバーサイドホテル2F リバーホール

サテライトシンポジウム3

9:00～12:30

司会 木原 雅子 (京都大学大学院医学研究科 助教授、WYSHプロジェクト代表)

科学的エビデンスに基づく予防の導入
ー子どもを取り巻く人間的つながりの強化を目指してー

SS3-1 中高生のエイズ予防教育／対策

ーWYSH プロジェクト概要ー

木原 雅子 京都大学大学院医学研究科 助教授、WYSHプロジェクト代表

SS3-2 保護者主体のアプローチ

吉川 泰子 全国高等学校PTA連合会健全育成委員長

SS3-3 学校ぐるみのアプローチ

今田 雄次 安芸高田市立甲田中学校長

SS3-4 地域主体のアプローチ

田井志津子 国際ソロプチミスト小松保健・教育奉仕委員長

SS3-5 保健所主体のアプローチ

田崎さえ子 長崎県県央保健所地域保健課専門幹

主催：WYSHプロジェクト

■ 12月3日(土) ■ 第4会場

市民公開講座

14:00～16:00

●主催：熊本大学 ●共催：日本エイズ学会 ●後援：熊本市、熊本県

座長 原田 信志（熊本大学医学薬学研究部）

[エイズは防げるか?]

AIDS・HIV 感染症の現状

松下 修三 熊本大学エイズ学研究センター

若者による性感染症予防教育の試み —仲間から仲間へ—

前田ひとみ 宮崎大学医学部看護学科

熊本市におけるエイズ予防対策の取り組み

松本 邦代 熊本市衛生部感染症対策課

セクシャル・ヘルスのすすめ—ケアという視点から

池上千寿子 ぶれいす東京